

00年度福祉産業学科における体育実技授業に関する授業評価

岡 本 孝 信

Students' Evaluations of the Physical Education Classes in the Department of
Welfare Business '00

Takanobu OKAMOTO

The purpose of this study is to investigate the students' evaluations of the physical education classes in the Department of Welfare Business. Eighty-six students each submitted a student evaluation from that consisted of 9 questions. The scores of students' evaluations, which could range from 1 to 5, were all in the high range. Also, there was significant correlation among nearly all responses.

These results suggest that there was a considerable degree of satisfaction with the course among the students.

Key words : students' evaluations, physical education class, department of welfare business
授業評価, 体育実技授業, 福祉産業学科

緒 言

近年、大学改革の一環として学部教育の充実に向けて学生による授業評価を取り入れる大学が多くなっており、体育関係者においてもその啓蒙活動が行われている¹⁾。授業評価を実施している各大学においては学生による授業評価に対して、未だ反対論も根強く賛否両論であるが、大学及び短期大学の自己点検・自己評価の一部としては大変有効であると考えられている²⁾。

そこで本研究では、体育実技を受講した本学の福祉産業学科(岡本担当クラス)男女学生を対象に授業評価を実施し、本年度の授業内容の点検を行い、来年度の授業計画の一資料として検討することにした。

調 査 方 法

対象は2000年度本学福祉産業学科体育実技受講生(岡本担当クラス)男女95名である。調査前に本調査の趣旨及び目的などについて説明を施し、学生本人の

率直な意見の回答を促した。なお、有効回答数は86名(89.6%)であった。調査票は表1に示すものである。

統 計 処 理

本研究で得られたデータは全て平均値±標準誤差で示した。本研究は体育実技における授業評価を目的としているため、受講生の受講状況に関する項目(表1のI)を除く、II及びIIIについて検討を試みた。各項目間の検定には一元配置分散分析を行い、有意差が認められたものに対して多重比較検定を用いた。また、相関係数の検定にはピアソンの相関係数検定法を用いた。なお、統計処理の有意性は危険率5%でもって判定した。

結 果

図1は授業評価得点の比較を示す。その結果、II-⑧以外の項目において4点以上の高い点数を示した。それぞれの結果を比較するとII-⑧に対してII-②

表1. 本授業において実施した授業評価に関するアンケート用紙

体育実技授業におけるアンケート

このアンケートは本授業受講学生諸君とともに授業をよりよく改善することを目指して実施するものである。

以下の設問に対して授業を受講したあなたなりの評価を5点法で行って下さい。

		非常に良い	良い	普通	あまり良くない	良くない
I	① 本授業におけるあなたの出席状況を自己評価して下さい。	⑤	④	③	②	①
	② 本授業におけるあなたの受講態度を自己評価して下さい。	⑤	④	③	②	①
	③ 本授業におけるあなたのクラスの授業態度に満足できましたか。	⑤	④	③	②	①

II	① 本授業に興味は持てましたか。	⑤	④	③	②	①
	② 教師の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	⑤	④	③	②	①
	③ 教師は授業において重要なところを強調してくれましたか。	⑤	④	③	②	①
	④ 教師の授業に対する熱意を感じましたか。	⑤	④	③	②	①
	⑤ 教師は授業の中で学生の参加を促しましたか。	⑤	④	③	②	①
	⑥ 教師は楽しく運動できる雰囲気を保つように努力していましたか。	⑤	④	③	②	①
	⑦ 本授業において運動しているとき楽しいと思いましたか。	⑤	④	③	②	①
	⑧ 本授業を終えて運動に対する意識や考え方は変わりましたか。	⑤	④	③	②	①

III	①この授業に対する総合評価をして下さい。	⑤	④	③	②	①
-----	----------------------	---	---	---	---	---

感想	
-----------	--

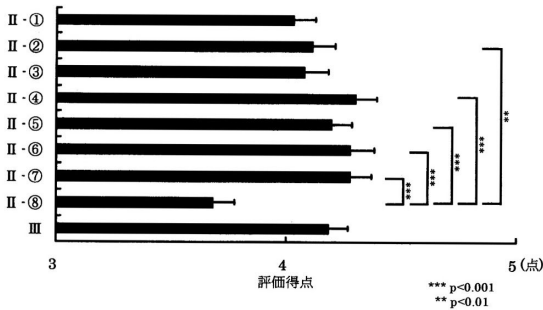


図1. 各項目における授業評価得点の比較

表2. 各項目間における授業評価の相関マトリックス

	II-①	II-②	II-③	II-④	II-⑤	II-⑥	II-⑦	II-⑧	III
II-①									
II-②	0.414								
II-③	0.332	0.612							
II-④	0.399	0.514	0.751						
II-⑤	0.431	0.510	0.491	0.562					
II-⑥	0.468	0.592	0.615	0.618	0.734				
II-⑦	0.696	0.379	0.123	0.202	0.430	0.373			
II-⑧	0.494	0.930	0.321	0.228	0.394	0.478	0.512		
III	0.664	0.484	0.347	0.403	0.543	0.577	0.659	0.553	

($p < 0.01$), II-④, II-⑤, II-⑥, II-⑦及びIII ($p < 0.001$) において有意差が認められた。

表2は授業評価における項目ごとの相関マトリックスを示す。それぞれの項目に関して相関分析を行った結果、II-③とII-⑦及びII-④とII-⑦を除く項目において相関関係が認められた。

考 察

従来、体育実技授業においては主に、球技スポーツ中心の授業イメージが強い。しかし、近年の大学教育の移り変わりの中で大学体育も数々の試みが行われ、インテリジェントボディー³⁾、あるいは生涯フィットネス⁴⁾など幾つかの大学において体育実技授業の中身に対する検討が計られてきた。本学は本年度開学ということもあり、体育実技授業内容の検討は十分ではなかったが各教員の柔軟な対応によりある程度、学生のニーズに対応した授業選択が行われたものと考えられる。

ここ数年において授業評価を取り入れる大学が増加し、一般教育学会などにおいて発表が行われている。授業評価そのものを教官の評価に用いる場合は問題があるものの、よりよい授業のためのフィードバックとしては効果を上げている⁵⁾。そのため、各大学において実施されている授業評価は単に教官の評価を行うことが目的ではなく、主によりよい授業として実質的な

効果を上げるために用いられているものと思われる。本研究においても同様に授業効果を上げることを一つの目的として授業評価を用いている。その結果、授業評価の得点はII-⑧を除き、全てにおいて4点以上の高い得点を示した。この結果は、本授業の受講生においては最初からの運動に対する意識が高く、単なるレクリエーションとしてではなく、自身の健康管理の手段として認識しているため、運動に対する意識や考え方に大きな影響を及ぼすものではなかったと思われる。また、本授業においては毎回の授業時にテーマを設定し、そのテーマに沿った身体運動科学の授業を行った(表3)。その中で様々な体の動かし方・使い方についての動機づけを行い、学生が積極的に参加できる授業の方向性を示したことが大きいものと考えられる。

各大学において実施されている授業評価の中で、授業への満足度の高い理由として「話し方」, 「学生への授業の参加」, 「熱意」などの影響が大きいことが示唆されている⁶⁾。そこで、本研究では授業評価を行ったそれぞれの項目の相互関係を明らかにするために相関分析により検討を行った。その結果、各項目間において高い相関関係が認められた。これらのことは、授業における目的や方向性などを明確にすること、明瞭で聞き取り易い話し方をすること、毎回の授業において何が重要であるかということを確認すること、そして、学生の授業への参加を促し、よりよい雰囲気を保つことなどが授業の満足度を高める要因として非常に大きな影響を及ぼすことを示唆するものである。特に「話し方」においては授業評価に及ぼす大きな影響として考えられており、授業の満足度が低い授業に関しては「話し方」に関する項目の評価が低い⁶⁾。そのため、授業を行う上において「話し方」を工夫することによって学生の授業への満足度は高くなると考えられる。しかし、教師一人あたりの学生の人数、学生の授業に対する受講姿勢、学生の授業に対する興味の有無などに問題があり、今後の検討課題である。

以上の結果から、00年度福祉産業学科学生の体育実技の授業に対する満足度は高いものと考えられた。

参 考 文 献

- 1) 社)全国大学体育連合・研究部：大学体育の展開－授業実践・シラバス。社)全国大学体育連合, 1995
- 2) 中村二三夫：学生による体育実技授業評価に関する考察。福島女子短期大学紀要, 31, 159-163, 1999
- 3) 篠原 稔：インテリジェントボディー教養としての身体の知一。体育の科学, 48, 813-817, 1998
- 4) 藤瀬武彦：高齢化社会に必要な「生涯フィットネ

- ス」. 私学公論, 29 (3), 32-38, 1996
- 5) 麓 信義: 学生による授業評価から大学における
教養教育授業のあり方を考えるー主として保健体育
分野の授業についてー. 弘前大学教育学部紀要, 78,
73-92, 1997
- 6) 安岡高志, 峯崎俊哉, 山本銀次, 高野二郎, 香取
草之助, 光澤舜明: 学生の授業評価におよぼす教員
の年齢の影響. 大学教育会誌, 19 (2), 75-79, 1997

表3. 本授業における目的と授業計画

体育実技 (身体運動を科学する)

目 的

本授業は単なるレクリエーションとしてのスポーツを実践するのではなく、
自らの身体を用いて身体運動を科学的に捉えることによって、自身の身体に関
心を持ち、「どのように体を動かすことが良いか」ということを考えよう!!

授 業 計 画

1. ガイダンス
2. ヘルスチェック (身体能力調査など)
3. ウォーミングアップ、クーリングダウンの意味と意義(ストレッチを用いて)、
4. 運動強度の求め方 (ウォーキング、ランニングを手段として)
5. 各種スポーツ実習による運動強度の測定①
6. 各種スポーツ実習による運動強度の測定②
7. 各種スポーツ実習による運動強度の測定③
8. 生活の中のフィットネス① (日常で用いる器具を利用して上半身を鍛える)
9. 生活の中のフィットネス② (日常で用いる器具を利用して下半身を鍛える)
10. 生活の中のフィットネス③ (パートナーとの全身のエクササイズ)
11. 生活の中のフィットネス④ (ボールや体操棒を用いた全身のエクササイズ)
12. ヘルスチェック (身体能力調査など)
13. 生涯スポーツへの発展と応用 (まとめ)